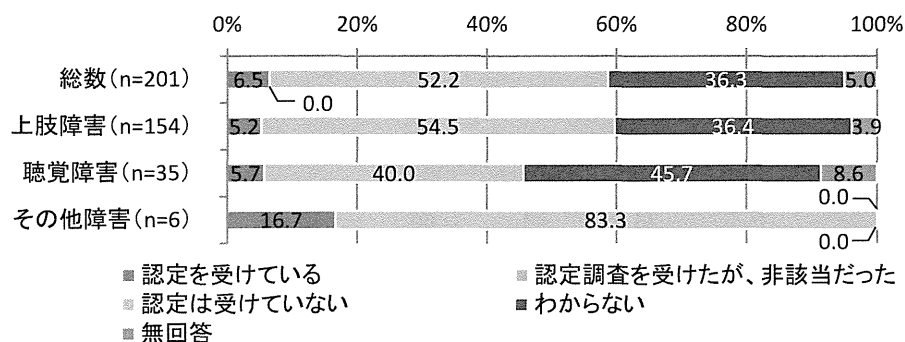


(2) 障害者自立支援法に基づく障害程度区分の認定

- 障害者自立支援法に基づく障害程度区分の認定状況は、全体で見ると、「認定は受けていない」が105人(52.2%)と最も多く、次いで「わからない」が73人(36.3%)である。一方で、「認定を受けている」が13人(6.5%)である。
- 障害種別で見ると、認定を受けている比率は、上肢障害、聴覚障害とも同程度である。一方で、「わからない」の比率は、上肢障害が聴覚障害に比べて低い。

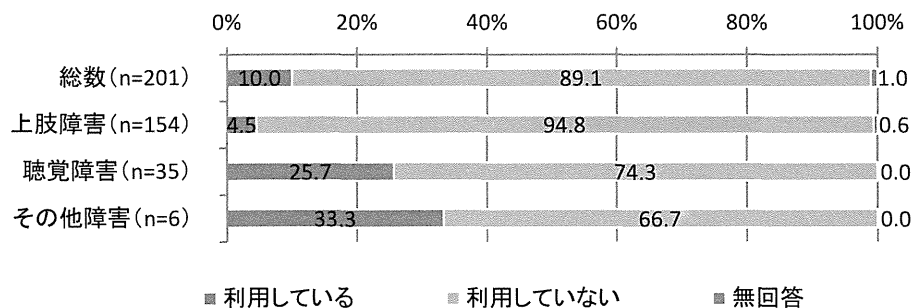
図表 33 障害程度区分の認定状況；障害種別



(3) 障害福祉サービスの利用状況

- 障害福祉サービスの利用状況は、全体で見ると、「利用していない」が179人(89.1%)と最も多い。
- 障害種別で見ると、上肢障害は聴覚障害に比べて利用率が低い。

図表 34 障害福祉サービスの利用状況；障害種別

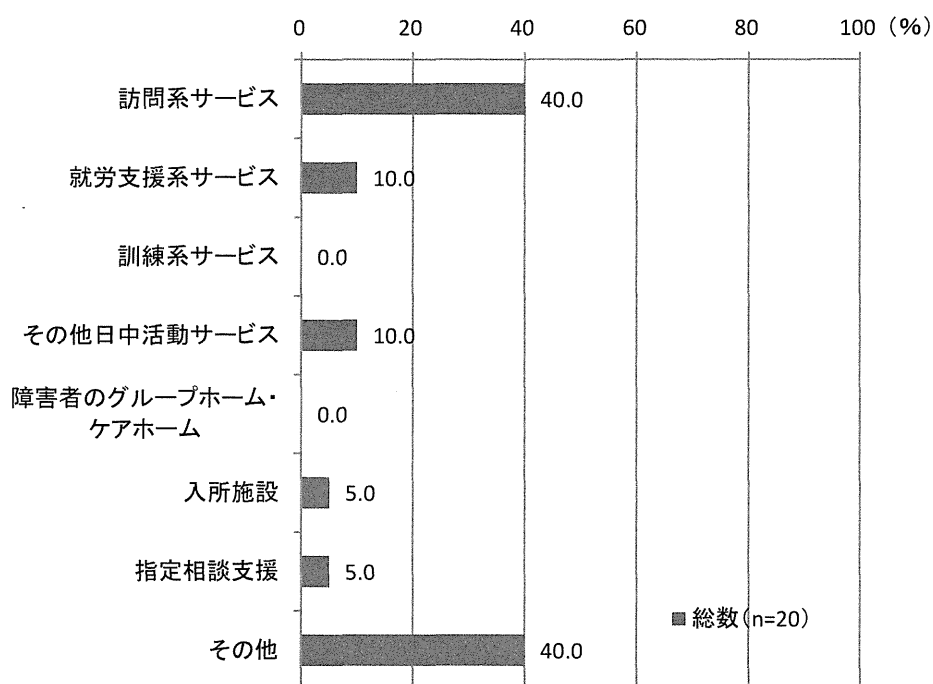


p<0.01 **

①利用しているサービス

- 具体的に利用している障害福祉サービスは、全体でみると、「訪問系サービス」「その他」がそれぞれ8人（40%）、次いで「就労支援系サービス」「その他日中活動サービス」がそれぞれ2人（10%）となっている。
- 「その他」の具体的な内容として、以下のような記述があった。
 - 「耳が聴こえないので病院に行く時に、手話、通訳人を頼む」
 - 「在宅重症心身障害者訪問療育事業（県）年1回家庭訪問」
 - 「有料道路における障がい者割引制度」
 - 「タクシーチケット」
 - 「聴覚障がい者用日常生活用具」

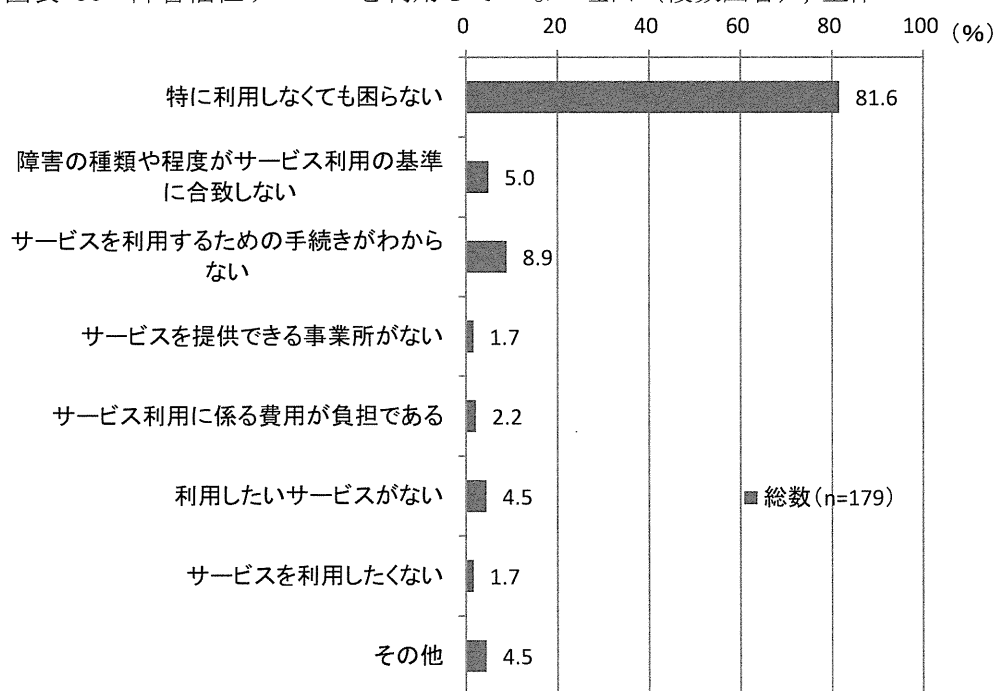
図表 35 利用しているサービスの内容（複数回答）；全体



②障害福祉サービスを利用していない理由

- 障害福祉サービスを利用していない理由は、全体で見ると、「特に利用しなくても困らない」が146人(81.6%)と最も多く、次いで「サービスを利用するための手続きがわからない」が16人(8.9%)、「障害の種類や程度がサービス利用の基準に合致しない」が9人(5%)である。
- 「利用したいサービスがない」と回答した8人(4.5%)の「利用したいサービスの内容」として、以下のような記述があった。
 - 「家の掃除をサポートしてほしい」
 - 「家事のサポートが欲しい。」
 - 「蛍光灯の交換・布団干し」
 - 「強い握力が必要な包丁、はさみ、掃除機を使った家事。」
 - 「外出支援、手話通訳の派遣、諸々の手続きサポート等」

図表 36 障害福祉サービスを利用していない理由（複数回答）；全体



(4) 介護保険法によるサービスの利用状況

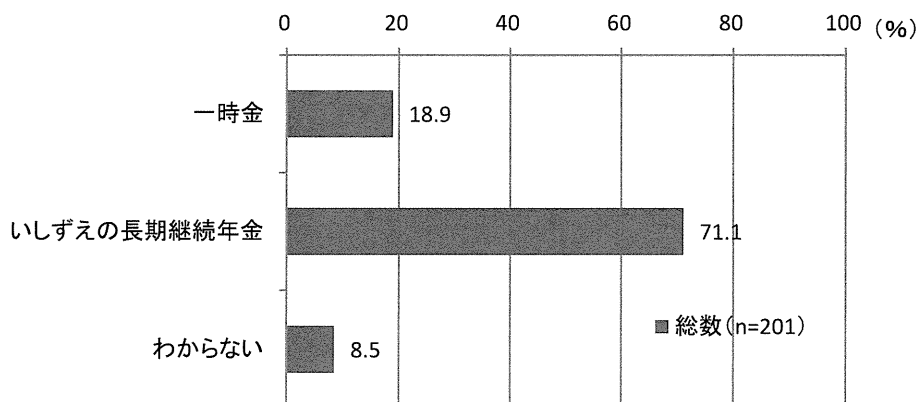
- 介護保険法によるサービス利用状況は、今回の回答者が40～50歳代の第二号被保険者であるためか、全体で見ると、「利用していない」が195人(97%)であり、「利用している」は2人(1%)である。

7. 公的支援等の状況

(1) サリドマイド訴訟の和解に基づく金銭給付の状況

- サリドマイド訴訟の和解に基づく金銭給付の受給状況は、全体で見ると、「いしずえの長期継続年金」が143人(71.1%)と最も多く、次いで「一時金」が38人(18.9%)、「わからない」が17人(8.5%)である。

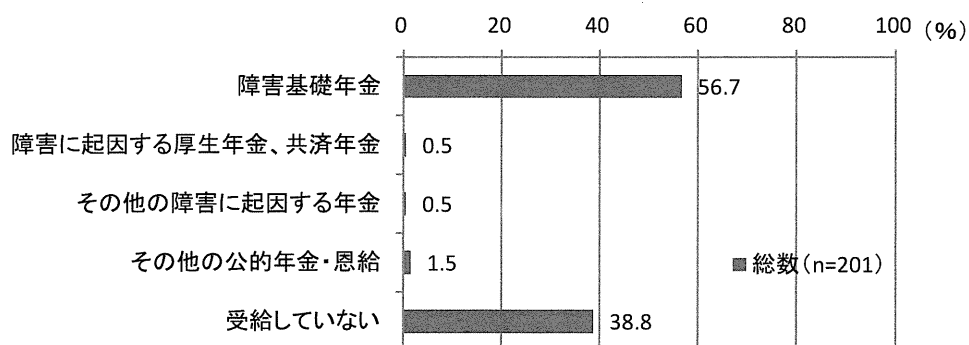
図表 37 サリドマイド訴訟の和解に基づく金銭給付の受給状況（複数回答）；全体



(2) 公的年金・恩給等の受給状況

- 上記以外の公的年金・恩給の受給状況は、全体で見ると「障害基礎年金」が114人(56.7%)と最も多い。一方で、「受給していない」が78人(38.8%)である。

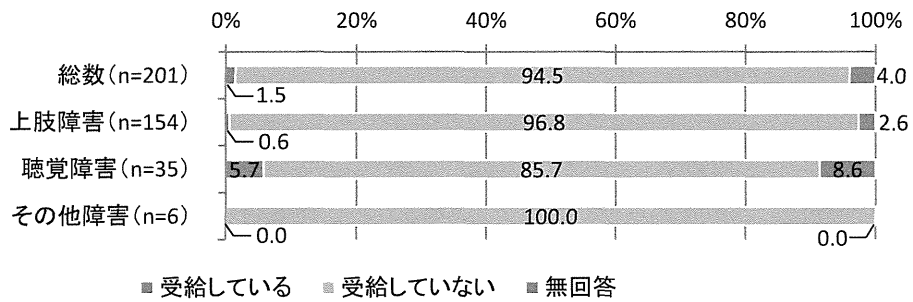
図表 38 公的年金・恩給等の受給状況（複数回答）；全体



(3) 生活保護の受給状況

○ 生活保護の受給は、全体で見ると、3人（1.5%）が受給している。

図表 39 生活保護の受給状況；障害種別

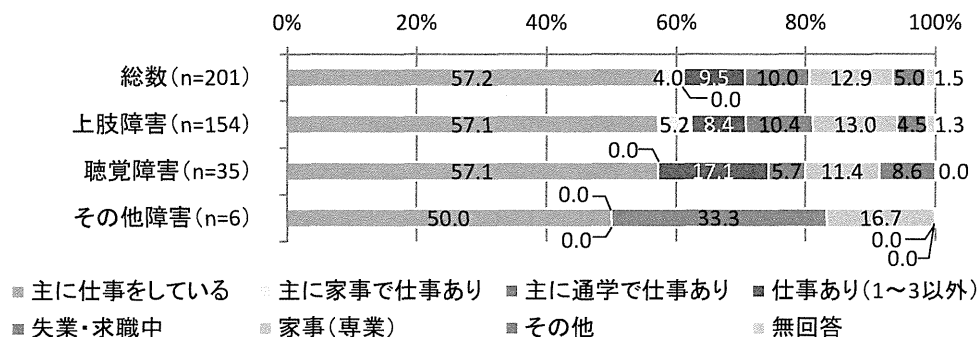


8. 仕事の状況

(1) 2012年6月中の仕事の状況

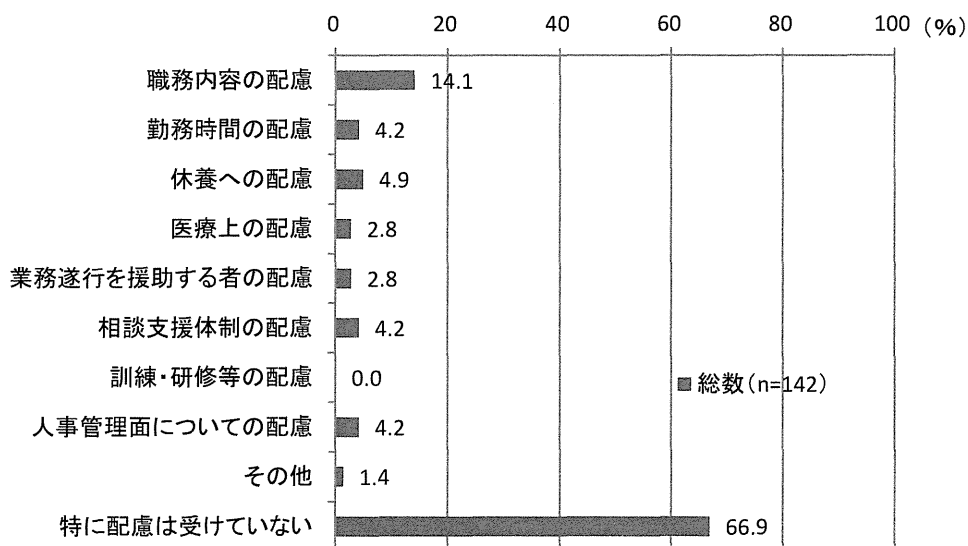
- 2012年6月中の仕事の状況は、全体でみると「主に仕事をしている」が115人(57.2%)と最も多く、次いで「家事(専業)」が26人(12.9%)、「失業・求職中」が20人(10%)である。障害種別でみると、「失業・休職中」と回答した比率は、上肢障害が聴覚障害に比べてやや高い。

図表 40 2012年6月中の仕事の状況；障害種別



- 「仕事あり」の回答者の主な仕事の就業形態は、全体でみると正規の職員・従業員が80人(56.3%)と最も多く、次いで自営業が19人(13.4%)、契約社員・嘱託が18人(12.7%)、パートが13人(9.2%)である。
- 勤務先で配慮を受けている事項について、全体でみると「特に配慮は受けていない」が95人(66.9%)と最も多い。一方、配慮を受けている場合の具体的な内容は「職務内容の配慮」が20人(14.1%)と最も多い。

図表 41 勤務先で配慮を受けている事項(複数回答)；全体



①仕事について、不便なこと、不安なこと等

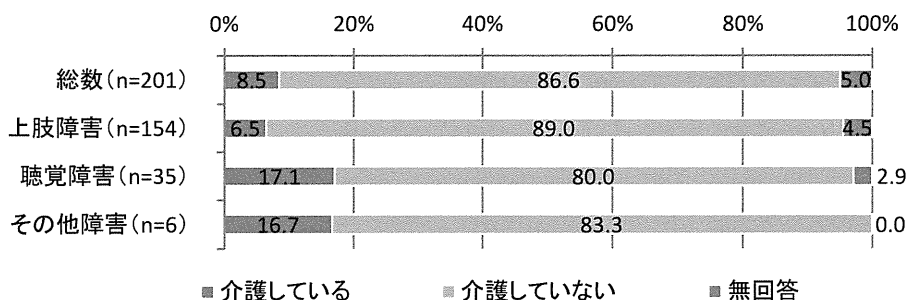
○ 仕事について、不便なこと、不安なこと等については、以下のような記述があった。

- 「昇給が他の人より遅れている」
- 「現在のスキルレベルより若干上のレベルを求められ、うまく結果が出せない時がある」
- 「眼が悪いので、パソコンを使う作業がしづらい」
- 「重い物などを持ってない・長い距離を歩行することが困難」

10. 家族介護の状況

- 現在の家族の介護状況は、全体でみると、「介護している」が17人（8.5%）である。障害種別でみると、上肢障害では10人（6.5%）、聴覚障害では6人（17.1%）が家族の介護をしている。

図表 42 家族の介護の有無；障害種別



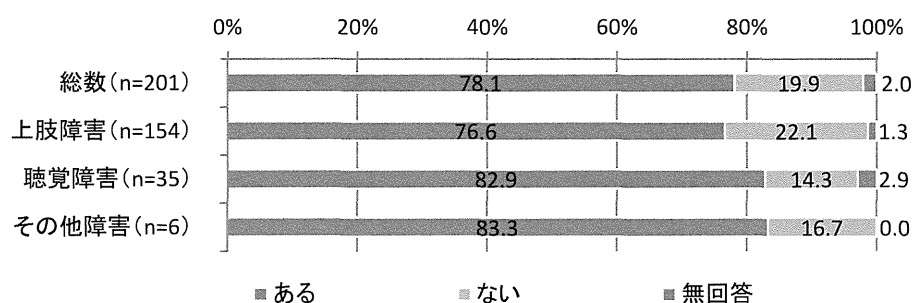
- 介護へのかかわりは、全体でみると、「主たる介護者」が10人（55.6%）と最も多い。
- 要介護者との同居状況は、全体でみると、「同居している」が7人（38.9%）、「同居していない」が10人（55.6%）となっている。
- 要介護者との続柄は、全体でみると、「父母・義父母」が15人（83.3%）となっている。
- 要介護者の介護保険の利用状況は、全体でみると、「利用あり」が10人（55.6%）、「利用なし」が6人（33.3%）である。
- 介護をする上で不便なこと、困っていること、不安なこと等については、以下のような記述があった。
 - 「父が遠方にいる時、すぐに行く事ができない。現在父は手術を受け、リハビリ病棟に入院中。退院に向けてリハビリを行っているが、退院した後一人暮らしになってしまう。主人と私が帰る事も考えたが、仕事や生活する上での便利さを考えると実家に戻れない。父を一人暮らしさせられないが、帰れない。それが一番困っている事である」

1.1. 生活上の悩みや困っていること

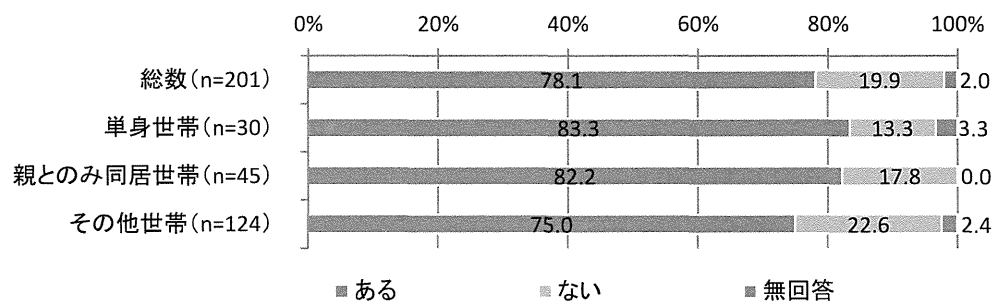
(1) 生活上の悩みやストレスの状況

- 生活上の悩みやストレスの状況は、全体で見ると、「悩みやストレスがある」が 157 人(78.1%)である。
- 障害種別で見ると、「悩みやストレスがある」と回答した比率は、上肢障害に比べて聴覚障害のほうが、やや高い。
- 世帯類型別で見ると、「悩みやストレスがある」と回答した比率は、その他世帯に比べて単身世帯、親とのみ同居世帯のほうが高い。

図表 43 生活上の悩みやストレスの有無；障害種別



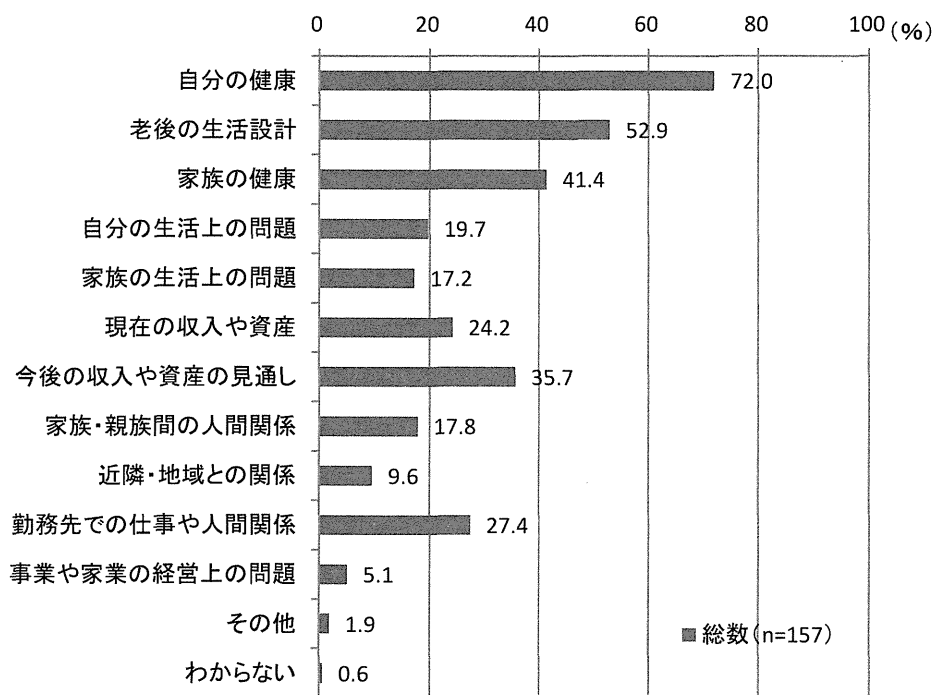
図表 44 生活上の悩みやストレスの有無；世帯類型別



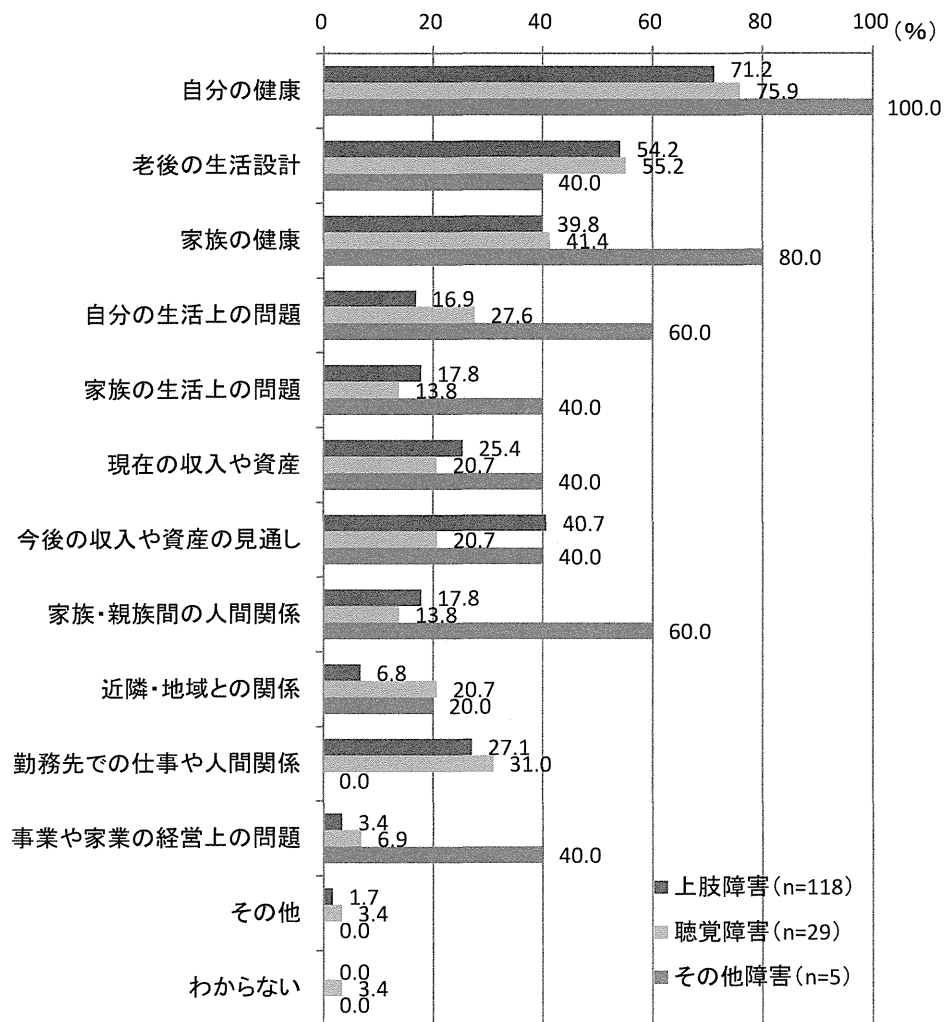
①悩みやストレスの内容

- どのようなことに悩みやストレスを感じているかについて、全体で見ると、「自分の健康」が113人（72%）と最も多く、次いで「老後の生活設計」が83人（52.9%）、「家族の健康」が65人（41.4%）となっている。
- 障害種別で比較して、上肢障害の比率が聴覚障害より10ポイント以上高い悩みやストレスは、「今後の収入や資産の見通し」である。一方、聴覚障害の比率が上肢障害より10ポイント以上高い症状は、「自分の生活上の問題」「近隣・地域との関係」である。
- 世帯類型別で比較すると、「自分の健康」「家族の健康」は親とのみ同居世帯の比率が高く、「老後の生活設計」は単身世帯の比率が高い。また、「今後の収入や資産の見通し」「家族の生活上の問題」はその他世帯の比率が高い。「自分の生活上の問題」は単身世帯、親とのみ同居世帯の比率が高い。

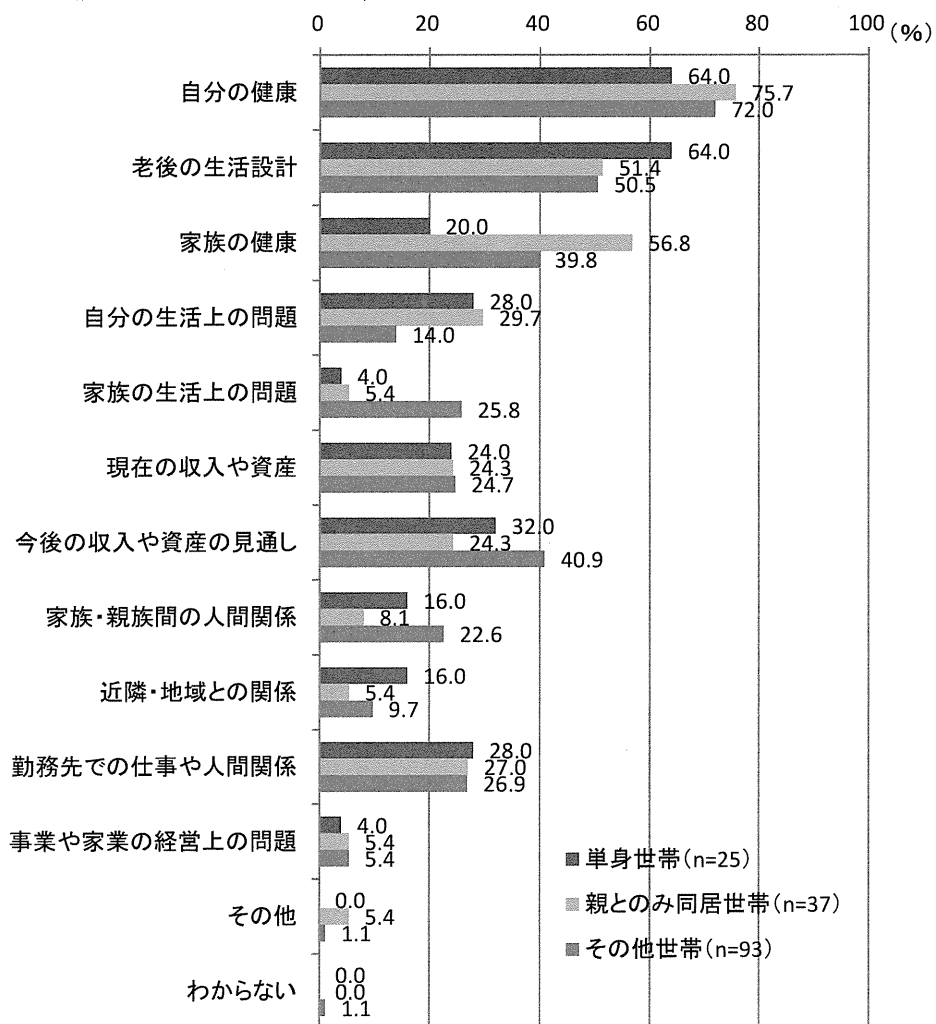
図表 45 悩みやストレスの内容（複数回答）；全体



図表 46 悩みやストレスの内容（複数回答）；障害種別



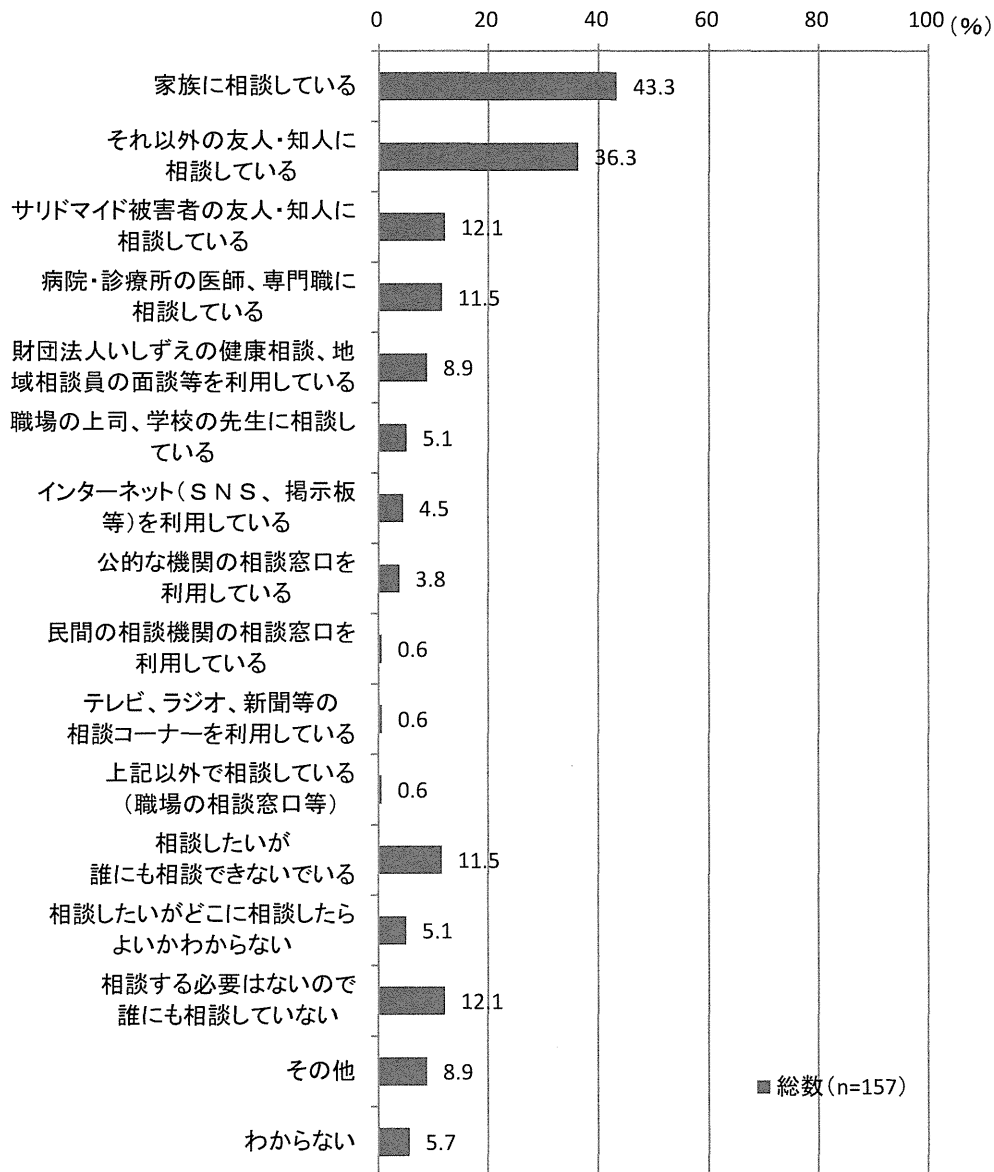
図表 47 悩みやストレスの内容；世帯類型別（複数回答）



②悩みやストレスの相談先

- 悩みやストレスをどのように相談先は、全体で見ると、「家族に相談している」が68人(43.3%)と最も多く、次いで「サリドマイド被害者以外の友人・知人に相談している」が57人(36.3%)、「サリドマイド被害者の友人・知人に相談している」が19人(12.1%)である。一方で、「相談する必要はないので誰にも相談していない」が19人(12.1%)、「相談したいが誰にも相談できないでいる」が18人(11.5%)である。

図表 48 悩みやストレスの相談先（複数回答）；全体

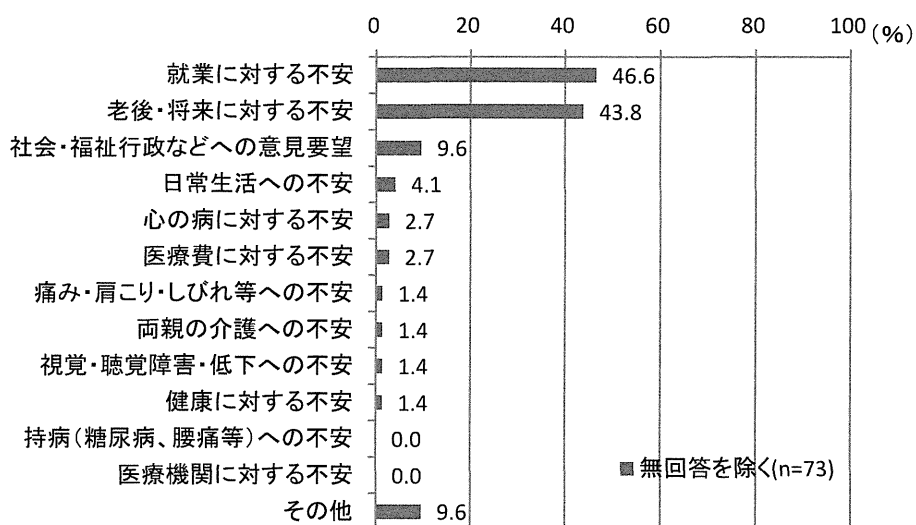


1 2. 現在生活をしている中での困りごと、将来に対しての不安（自由記述）

(1) 自分の仕事、将来の生活設計、今後の収入等への見通しについて

- 就業に対する不安に関する記入が 34 人（46.6%）と最も多く、次いで老後・将来に対する不安に関する記入が 32 人（43.8%）となっている。
- 具体的には、以下のような記述があった。
 - 「体力的な面で仕事が続けられるのか不安」
 - 「現在の給与額等を維持していける様な足の負担を軽減できる様な公共の職場など将来生活設計ができる制度があると助かります」
 - 「今後の生活は、父母、主人、私の 4 人暮らしなので、やはり誰か一人が動けなくなったらサポートが必要となってくるとは思います」
 - 「住宅ローンがあり、ほとんど蓄えがなく、また、55 歳時に収入が 50～60%に減額されるが、子供がちょうど高校～大学の年齢になり行かせてやれるのか不安」
 - 「いしずえの長期継続年金が終わった後、障害基礎年金だけでは生活していくのが苦しくなるのではないかと不安」

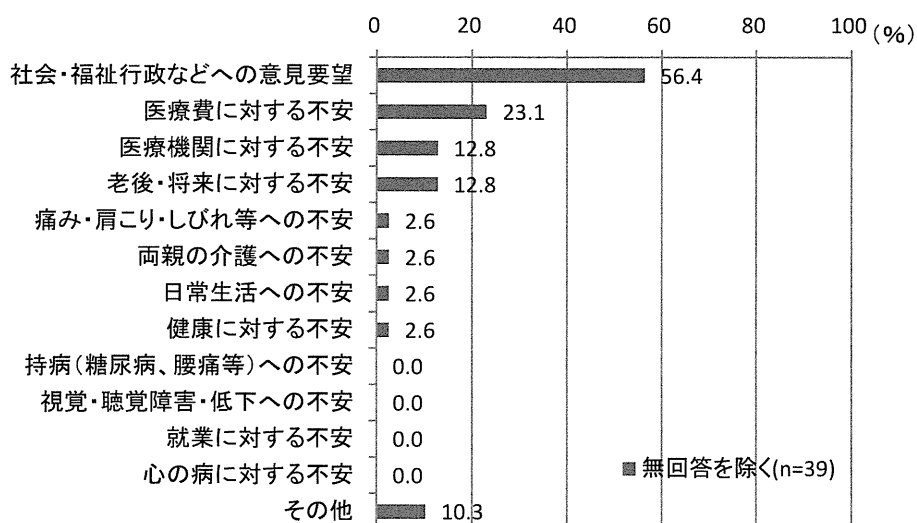
図表 49 現在生活をしている中での困りごと、将来に対しての不安【自分の仕事、将来の生活設計、今後の収入等】；カテゴリ別集計



(2) 医療・保健サービス、福祉・介護サービス等の利用について

- 社会・福祉行政等への意見・要望に関する記入が 22 人 (56.4%) と最も多い。
- 具体的には、以下のような記述があった。
 - 「どのような福祉サービスが利用できるのかがわからない」
 - 「日常生活に密着したサービスがあれば良いと思う」
 - 「一人暮らしで身内は一人もいない為、サービス等は優先的に受けられるよう制度化要」
 - 「市福祉課の対応が悪い、遅い。早くサービスを利用したい。」

図表 50 現在生活をしている中での困りごと、将来に対する不安【医療・保健サービス、福祉・介護サービス】；カテゴリ別集計



III. 国民生活基礎調査とアンケート調査結果の比較

- 国民生活基礎調査は、厚生労働省が1986年から毎年、全国で実施している調査で、世帯の構成、国民の保健、医療、福祉、年金、就業、所得などの国民生活の基礎的な事項を調査し、今後の厚生労働行政の企画、立案、運営のための基礎資料を得るために実施しているものである。
- ここでは、サリドマイド胎芽病者と同世代の生活実態を把握した「2010年度国民生活基礎調査」(50～54歳 n=7,659)の結果と本アンケート調査結果との比較を行った。これにより、サリドマイド胎芽病者の固有の生活課題と年齢的な加齢に伴う同世代共通の課題との異同を分析することを企図したものである。

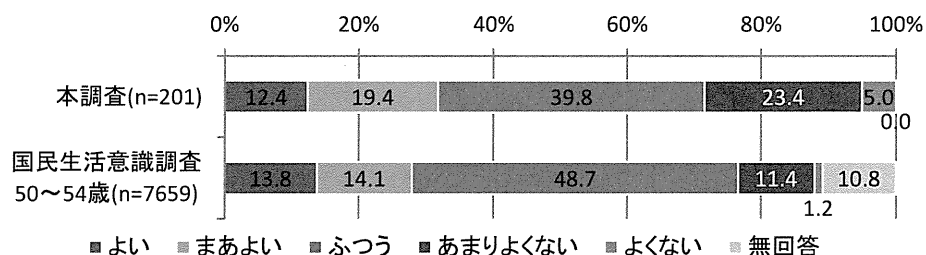
1. 日常生活の状況

- サリドマイド胎芽病者は同世代と比べて、現在の健康状態が良好でない。また、健康上の問題が日常生活の様々な場面に影響を与えていることがうかがえる。

(1) 現在の健康状態

- 現在の健康状態が「あまりよくない」「よくない」をあわせた比率は、本調査 28.4%が国民生活基礎調査 12.6%を上回っている。

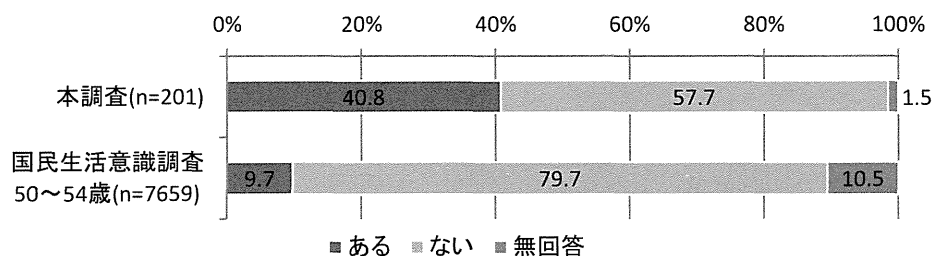
図表 51 現在の健康状態；国民生活基礎調査結果（50～54歳）との比較



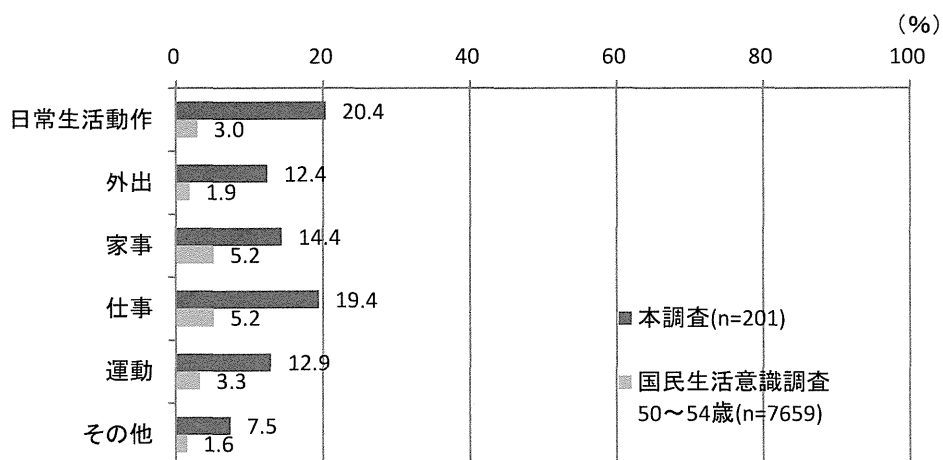
(2) 健康上の問題の日常生活への影響

- 健康上の問題の日常生活への影響が「ある」とした比率は、本調査 40.8%が国民生活基礎調査 9.7%を上回っている。
- また、健康上の問題が日常生活に影響する具体的な内容をみると、いずれの項目でも本調査が国民生活基礎調査を上回っている。

図表 52 日常生活への影響有無；国民生活基礎調査結果（50～54歳）との比較



図表 53 日常生活への影響の具体的内容（複数回答）；国民生活基礎調査結果（50～54歳）との比較



※国民生活基礎調査の家事・仕事は同一選択肢のため同じ数字をみなして記載

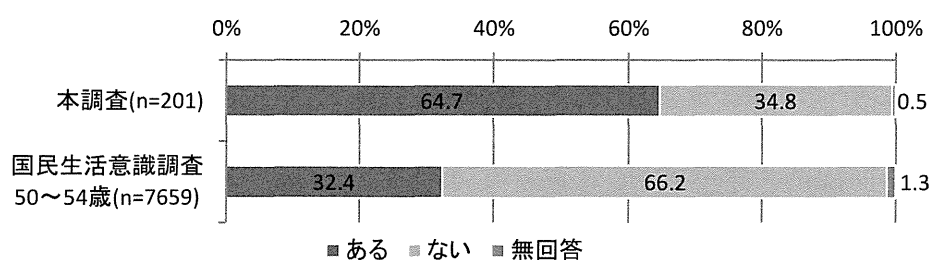
2. 医療・保健サービスの利用状況

- サリドマイド胎芽病者は同世代と比べて、病気やけがなどで具合の悪いところ（自覚症状）の数が多い。特に、同世代に比べて、筋骨格系の症状、手足の症状や、「体がだるい」「頭痛」「目のかすみ」「物を見づらい」「きこえにくい」といった症状の比率が高い。
- 自覚症状の多さを反映し、サリドマイド胎芽病者は同世代と比べて、現在通院している傷病の個数も多い。特に、同世代に比べて、「高脂血症」「眼の病気・障害」「耳の病気・障害」「肩こり症」「腰痛症」等の罹患率が高い。
- 健診等の受診状況については、サリドマイド胎芽病者と同世代に顕著な差はみられなかった。

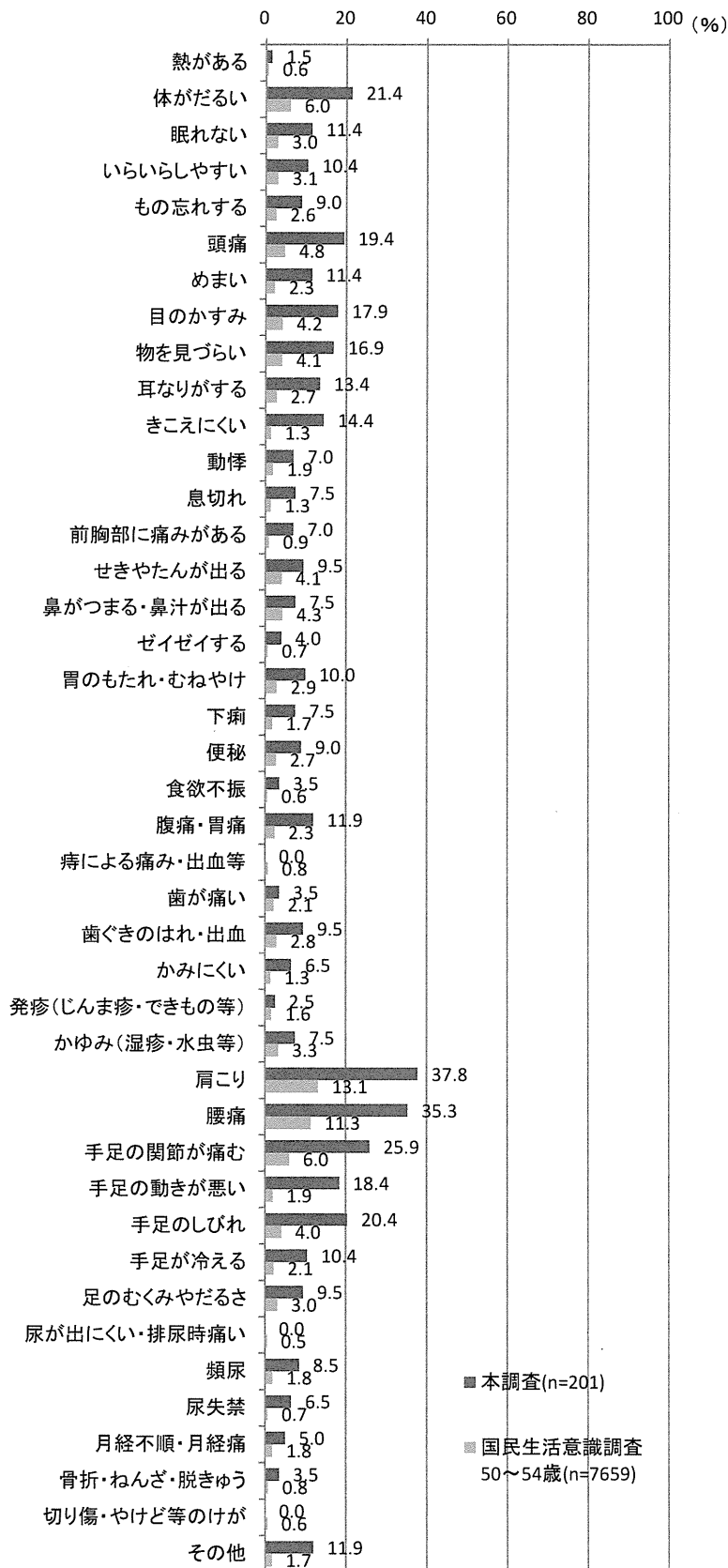
(1) 病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）

- ここ数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）が「ある」とした比率は、本調査 64.7%が国民生活基礎調査 32.4%を上回っている。
- また、具体的な自覚症状の平均をみると、本調査 7.1 が国民生活基礎調査 3.8 を上回っている。
- さらに、具体的な自覚症状の内容をみると、いずれの項目でも本調査が国民生活基礎調査を上回っている。特に、10 ポイント以上上回っている自覚症状は、「体がだるい」「頭痛」「目のかすみ」「物を見づらい」「きこえにくい」「肩こり」「腰痛」「手足の関節が痛む」「手足の動きが悪い」「手足のしびれ」である。

図表 54 ここ数日、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）の有無；国民生活基礎調査結果（50～54 歳）との比較



図表 55 自覚症状の具体的な内容（複数回答）；国民生活基礎調査結果（50～54歳）との比較



(2) 傷病による通院状況

- 現在通院している傷病の平均をみると、本調査 3.5 が国民生活基礎調査 1.6 を上回っている。
- さらに、具体的な通院している傷病の内容をみると、いずれの項目でも本調査が国民生活基礎調査を上回っている。特に、10 ポイント以上上回っている傷病は、「高脂血症」「眼の病気・障害」「耳の病気・障害」「肩こり症」「腰痛症」である。